

マークテック

化学品受託事業を開始

大口から少量まで 成田の生産能力増強

アルコニックグループで非破壊検査装置やマーキング装置を手掛けるマークテック（本社＝東京都大田区、西本圭吾社長）は、新たに化学品の受託生産事業を立ち上げる。探傷剤やペイントを生産している成田工場（千葉県）の製造設備と危険物も保管できる倉庫を活用して、化学品の外注生産ニーズを取り込む。生産能力を高めるため、攪拌用タンクの増設や工場のレイアウト変更も実施する。



成田工場

マークテックは鉄鋼メーカーが表面検査などに使う非破壊検査装置と、鉄鋼製品への印字・マーキング装置の国内トップメーカー。建材などの性能を検査する風・環境試験装置と合わせて3本柱の事業構成になっている。4つ目の事業として始めるのが、化学品の受託生産だ。同社は成田のほか上海とタイにも工場を構え、浸透探傷、磁粉探傷などの各種検査に使う探傷剤

や、印字・マーキングのペイント、工業用の脱脂洗浄剤などを生産している。海外工場では3年ほど前から化学品の受託生産事業を一部行ってきた。

西本社長は、「海外では危険品も扱える日系メーカーが少なく、コンプライアンスの面でも当社にOEM生産してほしいというニーズがあった」と話す。直近はコロナ禍で海上輸送の遅延が多発し、化学品の輸出入はコストやリードタイムでのリスクが顕在化している。化学品の現地生産ニーズが今後さらに増すことを見込み、国内でも受託生産事業を始めることを決めた。



受託生産された化学品が充填された容器

成田工場は化学品生産設備として1000リットルから1200リットルまで大小タンクを13基所有。大口の量産品からスポットの少量生産まで対応できる。倉庫は5棟あり、消防法で指定される引火性の危険物なども保管が可能。研究開発機能があるため、受託先の開発段階から相談に乗れる。ISO 9001・14001認証も取得しており、品質保証や環境対応も徹底している。受託生産事業の立ち

上げに合わせて1700リットルクラスのタンクをまず3基導入する方針。今秋に工場内の動線を改善するレイアウト変更を含めて、積極的な設備投資を行う予定だ。ファブレスの化学品メーカーや、化学品を外注生産している商社などからの受注を見込む。西本社長は「国内事業が本格的に立ち上がり、現在の化学品の生産量に対して、3年くらいで倍程度まで伸ばしたい」と意気込む。

株式会社産業新聞社発行

日刊産業新聞 第20394号 (2022年3月8日)